



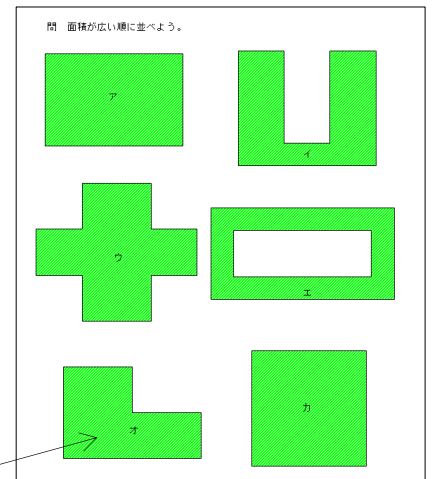
4年生の授業

ホームページにも掲載してありますが、校内研究会の取り組みの一つとして、4年1組の子どもたちの算数の授業を、中北教育事務所指導主事の越水久也先生をはじめ、甲西中・南湖小の校長先生や甲西中の数学の先生方、本校全職員で参観し、授業研究会を行いました。私は、4年1組の授業を、その前に2時間見せてもらい、担任にはアドバイスをしながら、授業研究会を迎えました。

何度かこの紙面に書かせてもらっていますが、めざす授業は、来年度から実施される改訂学習指導要領が示す授業のあり方の中心である「主体的・対話的で深い学び」であり、本校の校内研究の研究主題である「自ら学び続ける子どもの育成」です。その中でも今年度は「子どもたちが自分の考えを表現し、出し合い、学び合う授業」をめざしています。

中学年の教職員は、面積とは何かを学習した後、右の図を子どもたちと与え、どの形のいちばん面積が大きいのか、どの順に学習していけばそれが解決できるかを子どもたちと話し、いろいろな形の面積を求めていく計画を考えました。

これから求める形を子どもたちにあらかじめ渡すことで、子どもたちも、次にどの形の面積を求めるのかがあらかじめ分かり、授業の見通しをもつことができます。子どもたちが前の授業での学習を生かし、次の授業へつなげていくことを考えました。まず、長方形の面積の求め方を学習し、次に正方形の面積を学習し、複雑な形の学習に入っていました。



授業は、長方形の面積をもとにして **L字型の図形** を考える授業でした。4年1組の子どもたちからは、

その1 2つの長方形に分けて考え、それぞれの面積求めて足す。(縦に2つに分ける)

その2 2つの長方形に分けて考え、それぞれの面積求めて足す。(横に2つに分ける)

その3 欠けている部分がある長方形として面積を考え、欠けている長方形の面積をそこから引く。

の3つの考えが出され、子どもたちが、それぞれの考えについて、どういう求め方をしているのかを確認しながら面積を求めました。4年生が楽しく学びながら面積を求めている姿を見て、甲西中・南湖小の校長先生から「この子たちは学力がついて行くよね」というお褒めの言葉をいただきました。



これで、低・中・高のそれぞれのブロックで1つずつ授業研究会を行い、教職員がそれぞれの学年での授業のイメージをもつことができました。

1月22日には、市の研究指定を受けての授業を県内の教職員に向けて公開します。大明小の子どもたちのがんばる姿を見ていただきたいと思います。

校長が声を荒げた日

校長研修会で「大切にしてもらったという記憶を子どもにたくさん残すこと」が肝心であるという話を聞きました。子どもたちが、将来、困難なことに出会ったときに、こういう記憶が支えになるということです。

各担任は、もちろん子どもたちを大切に思い、優しくていねいに接していると思っています。そして、ときには、厳しく子どもたちに接してもいます。担任以外の教職員は、担任ほど子どもたちに厳しく接しなくてもいい面はありますが、それでも、ダメなことはダメと、担任をはじめ全教職員が同じ方針や約束をもって子どもたちに接しています。教職員によって、ダメという基準が違ってしまうと困るのは子どもたちですから…。そんな中でも、校長は、いちばん子どもたちにやさしく、穏やかに接してやれる立場でもあります。いたずらなどをして、担任に叱られて、私のところへ連れてこられる子どもがいます。すでに、担任に叱られて涙目になって私のところへ来ているのですから、私が重ねて叱る必要はありません。「怒られたか？ 反省したなら、もうやるなよ。」くらいの言葉がけで終わりにします。

それは、先日の避難訓練のときのことです。今回の避難訓練は、子どもたちにも、教職員にも事前の予告をしないで行いました。実施する日時を知っていたのは、教頭と私だけでした。教頭と話し合い、子どもたちがバラバラになっている掃除の時間をねらって避難訓練を行いました。

これまでの避難訓練は、事前に予告し、授業時間の避難でもあったので、担任の指導のもと、整然と避難ができていました。それでも、おしゃべりが聞こえたり、笑顔が見られたりしたので、私は100点満点をあげられないと話をしてきました。今回は、突然の避難訓練だったので、慌てたり、興奮したりする姿が見られました。それは、全員が校庭に避難してからも続き、話し声が収まりませんでした。「これはちょっといかなあ」と思っていました。

当然、それを感じた各担任は注意をしました。全員が避難したことを確認後、私からの講評になったのですが、まだ、子どもたちを注意する担任の声がいくつもありません。私は全校の子どもたちの前に立って

「礼をしたいのだけれど、先生方の注意する声が続いているので、礼ができません。」

つまり、話を始められないと伝えました。そこでやっと落ち着いた雰囲気になり、話を始めました。

すると…、校庭で座って話を聞いたものですから、土や砂をいたずらし始める子がチラホラ…、後ろを向いたり、隣の子と目を合わせて笑ったり、という子の姿も見られました。普段の集会でもそうですが、そのときは特に、避難訓練であり、危機意識をもてなければいけないと思い、口からハンドマイクを外して、

「それが話を聞く態度か！！」

と、肉声で声を荒げて叱りました。私の声が校舎に跳ね返って響きました。さすがにこれは効いて、その後は神妙に全員が話を聞いていました。

予告なしでの訓練でしたので、この態度もわからないでもないですが、はじめをつけるべきところはしっかりはじめがつけられないといけません。スケープゴートにした感もありますが、5・6年生には話の中でも厳しい注文をつかせてもらいました。もちろん、まじめに訓練を行い、私の話を聞こうとしていた子どもの方が多かったことは認めますが、そうできなかった子たちに反省をしてもらいたいと思いました。

大明小の子どもたちはどの子も大切な子どもです。その子どもたちの命を守ることは、学校の大きな使命です。何よりも、学校・教職員が守るだけでなく、自分の命、自分の安全は自分で守ることのできる子どもを育てることをめざして指導しています。大切な子どもたちの命、安全を守るためには、ときには厳しい指導が必要になります。



1学期の引渡訓練のときの写真です